

# 「次世代に繋ぐ女性研究者サポート連鎖の形成」 の事業活動（平成 19 年度～平成 21 年度）

平成 19 年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に本学が応募し、採択された「次世代に繋ぐ女性研究者サポート連鎖の形成」プログラムにおける活動内容を報告する。この事業は、理系分野における女性比率が特に低いことに注目し、理系の女性研究者を対象を絞って支援することを目的としている。対象が限定的であることは問題であったが、本事業の支援の中身が環境整備であることから、その成果は他分野の女性研究者にも広く波及することが期待された。

なお、振興調整費の予算は、直接経費としては、単年度 3,000 万円程度であるが、その内 2,700 万円が人件費となっている。これは、本プログラムの中心が「研究支援員制度」であり、支援員雇用のためにほとんどの予算が使われていることを意味している。従って、記載されているすべての活動が、振興調整費によって賄われたものではなく、いくつかは大阪大学独自の予算によるものである。

「次世代に繋ぐ女性研究者サポート連鎖の形成」というタイトルが示すとおり、本プログラムは、現在いる女性研究者を直接支援し、育てるということ以外に、支援する側である学生や若い研究者をも「育てる」という相互の人材育成効果を狙っている。同じキャンパス内にいる者同士による互助的な制度とも言えるが、それが次世代に繋がる人材育成の連鎖となることを期待しているという点が、大きな特徴である。

「次世代に繋ぐ女性研究者サポート連鎖の形成」の事業活動は、平成 19 年度から平成 21 年度まで実施され、平成 22 年 3 月 4 日に（独）科学技術振興機構（以下「JST」という。）による現地視察が行われた。これは、事業の終了にあたり、事業期間全体の進捗や今後の事業の継続性について確認し、成果の取りまとめに向けた議論を行うことを目的としたものである。JST 科学技術振興調整費業務室の担当者が、大阪大学吹田キャンパスに来訪し、事業の実施状況等を視察するとともに、本学事業担当者との意見交換を行った。

平成 22 年度以降の事業活動については、平成 22 年以降における取り組みに掲載するが、研究支援員制度利用状況やシンポジウム・セミナー等、推移の観点から、「次世代に繋ぐ女性研究者サポート連鎖の形成」の事業活動（平成 19 年度～平成 21 年度）で掲載することが適当なものについては、便宜的にこちらに掲載する。

## 1. 事業概要

○課題名 「次世代に繋ぐ女性研究者サポート連鎖の形成」 (総括責任者: 総長 鷲田清一)

### 機関の現状

本学の女性研究者の比率は平成 18 年 5 月 1 日現在 8.2%であり、平成 7 年から 2.6 ポイント上昇しているが、女子学生の比率には遠く及ばず、大学全体の積極的な対策が強く望まれている。そこで、平成 17 年度の男女共同参画に関する検討ワーキングによる基本理念の策定、アンケート調査などの活動を経て、平成 18 年度には「多様な人材活用推進委員会」が設置された。調査結果によれば、将来研究者の道を志す女子学生の比率は 25.2%もある一方、女性研究者の比率は様々な要因により低い水準で留まっていることがわかった。委員会では、基本理念に基づき大学全体の意識向上を図ると共に、ニーズ調査に基づいた具体的で有効な施策を検討している。最初の事業として 1 年目には学内に新保育施設建設が予定されているが、更なる支援策が必要である。

### 計画構想

本計画では、「多様な人材活用推進委員会」のもと、「女性研究者キャリア・デザインラボ」(キャリア面での支援)及び NPO 法人「阪大ワーク&ライフサポート」(生活面での支援)を新設し、「キャンパスデザイン室」(学内施設のユニバーサルデザイン化)や医学部附属病院(妊婦健診・病児支援)と相互連携した活動によって、女性研究者に有効で綿密な支援を行い、大学全体の継続的キャンパスプランとして女性研究者育成に取り組む。

具体的には、平成 19 年度には「研究支援員制度」及び「女性研究者キャリア・デザインラボ」を新設した。「女性研究者キャリア・デザインラボ」が実施する「研究支援員制度」では、大学院修了者や学生を「支援研究者」「研究補助者」として雇用・派遣している。これにより女性研究者への支援を行うだけでなく、ロールモデルとの身近な交流の機会を提供し啓発することにより次世代の女性研究者を育成する。

また、「女性研究者キャリア・デザインラボ」は、女子学生を対象とした講義やセミナーを実施し、女性キャリアに関する地域連携型学際的研究を推進して研究成果を発信する。さらに、女性研究者のネットワークを構築して情報や問題の共有化を図る。

学内保育所においては保育定員を拡充する。また、多数の保育ボランティアの登録を行うことにより、保育体験による学生の女性研究者支援意識の向上や育児力育成を図るとともに、女性研究者への多様な保育サービスを実施する。

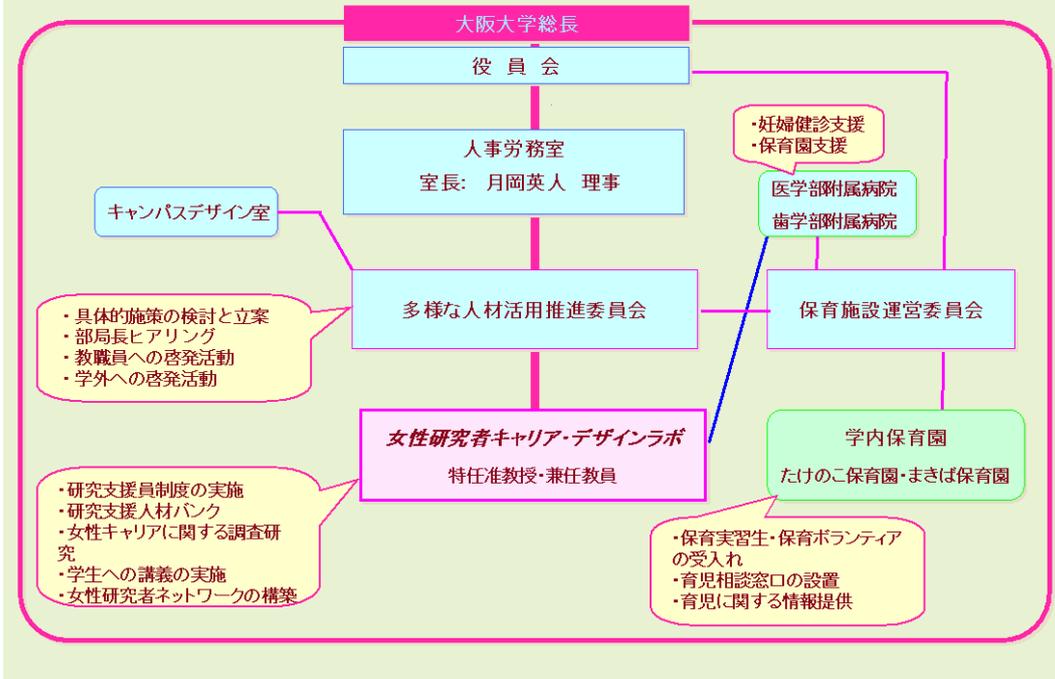
これらの制度・活動によって、現在の女性研究者支援だけでなく、次世代の女性研究者の育成となる「女性研究者サポート連鎖」を形成する。

### 達成目標 (ミッションステートメント)

- 1) 「研究支援員制度」を作る。支援員の人材バンクを作り、3 年間で延べ 50 名以上の大学院修了者・学生を支援研究者・研究補助員として雇用し、育児等により研究継続に困難を感じている女性研究者を支援する。また本期間内に問題点を抽出し制度の改革案を作成する。
- 2) 「女性研究者キャリア・デザインラボ」を設置する。学部共通科目への科目の提供、地域の男女共同参画担当部署や企業の男女共同参画推進室とも連携した女性研究者キャリアの研究ネットワークの創設を通して、女性キャリアに関する地域連携型学際的研究を推進するなど教育・研究面での新たなミッションを展開する。
- 3) 大学内保育所の拡充・新設により、保育定員の 200%の増加と就学までの年齢引き上げを行う。また、保育人材バンクに 50 名以上の保育ボランティアを登録し、保育園の代替送迎や自宅での保育シッターなども含めた女性研究者への多様な支援を実施する。
- 4) 理工系部局における常勤女性研究者の人数を、3 年以内に現在より 3 割増加させる。



平成20年度 大阪大学  
次世代に繋ぐ女性研究者サポート連鎖 実施体制



科学技術振興調整費:「女性研究者支援モデル育成」事業



大阪大学  
次世代に繋ぐ女性研究者サポート連鎖の形成 実施内容

